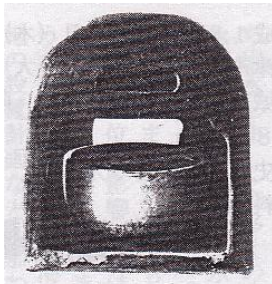


ちょっと
道具は語る 摂津市の昔の暮らし

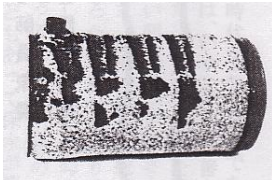


摂津市所蔵の火鉢いろいろ

日本人が創造した暖房は、火鉢にせよ、こたつにせよ、いずれも部分暖房で、暖房費が安くなるという理由以外にも、みんなで囲むという日本人の井戸端会議の性質があるかもしれません。



炬燵(こたつ)



湯タンポ

**第10回
暖
火鉢**

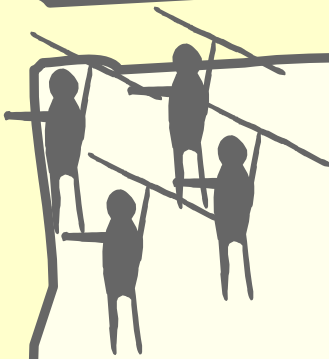
た火櫃と呼ぶ方形の火鉢もありました。
 平安時代の貴族の家は、神殿造りといって、広い板敷きで、まわりには壁もなく、間仕切りもない吹き放ちの建物でした。夜は葺戸(しみど)をおろし、昼間は上げておくのですが、風を防ぐものといえば御簾(みすだれ)と壁代と几帳(きちょう)だけで、大変寒い状態でした。
 炭は貴重品でしたので貴族宅でも火鉢の数は非常に少なかったようでした。

『枕草子』には火桶(ひおけ)、炭櫃(すびつ)についての記述が大変多くあります。火桶は今日の火鉢です。刳物(くりもの)あるいは曲物(まげもの)で円筒形につくり、胴に胡粉(こふん)を塗り、大和絵などを描いていました。高級品には沈香木(じんこうぼく)でつくり、梨木地(なしじ)の金蒔絵をしたものもあります。
 炭櫃はいろりの一種ですが、角形の火鉢や円形の火鉢のことも炭櫃と呼ぶなど混同されていました。ま

郷土摂津
いにしえ通信

第34号

平成十三年二月一日
 発行
 摂津市教育委員会
 生涯学習部生涯学習課



講座開催のお知らせ

摂津市文化財講座

「夢馳せる戦国の世の強者どもの城」

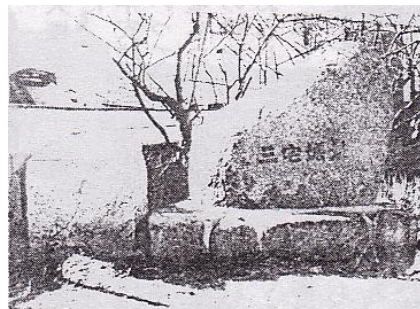
摂津市には、三宅城・黒丸城・一津屋の砦など戦国時代の城があったと言われています。戦国時代の城から、摂津市の歴史に興味を持っていただける内容です。

と き 平成13年3月15日（木）午後1時30分～3時30分
 ところ 摂津市立安威川公民館 大ホール
 講 師 古城友の会 会長 尾原 隆男氏
 定 員 180名
 対 象 歴史に関心のある方
 参加費 無料

申し込み多数の場合は抽選となります。

申し込み 往復はがきに、住所・氏名・電話・年齢・返信用にあて先を明記の上、平成13年3月9日までに申し込んで下さい。
 〒566-8555
 摂津市三島1-1-1
 摂津市教育員会
 生涯学習課 生涯学習推進係

千里丘東1丁目所在
三宅城址



郷土史コーナー

鳥養の歴史

戦後の水利

昭和二十一年（一九四六年）十二月になって、大阪府の淀川右岸用排水改良事業が開始されました。まず、三箇牧村大字唐崎地先の堤防に用排水機を設置することになりました。戦後の経済事情の悪い中で、資材費・労賃の暴騰に悩まされ、三年四カ月の期間をかけて、昭和二十五年三月に完成しました。この結果、鳥飼村の一部や味生村大字別府は、三箇牧揚水機によって取水するようになりました。なお、鳥飼村の残部と味生村の一津屋・新在家は、いぜんとして五久樋・川原樋によって淀川から直接取水していました。

三箇牧揚水機によって取水された水は本市域にとどまらず、他市まで灌漑しました。そのため、三島郡の神安普通水利組合と、吹田市の吹田普通水利組合・豊津普通水利組合、豊中市の小曾根普通組

合、豊能郡の庄内普通水利組合が連合して、淀川右岸普通水利組合連合を組織しました。

鳥飼村の田地は、いぜんとして排水が悪く、八十パーセントが湿田でした。用水が、三箇牧ポンプ・五久樋・川原樋を通じて、淀川から潤沢に供給されているにもかかわらず、排水は、村の西北部を走る鳥飼井路だけに頼っていたからでした。しかも、鳥飼井路は素掘りで、湛水のために両岸が崩壊し、土砂が堆積して逆勾配になっているところもあり、悪水が流出せず、豪雨の時には、水が水田に流入しました。鳥飼井路に注ぐ七つの支水路も、土砂の流入により高くなって、排水が悪く、そのために大部分が一毛作に頼る零細経営でした。昭和三十年一月、鳥飼村では、鳥飼井路を改修し、支水路を掘削して水位を低下させ、二毛作ができるようにする計画をたて、村会に提案して、即日可決されました。しかし、事業が昭和三十一年度から開始される予定でしたが、種々の事情から実行に移されないうで終わってしまいました。

明治時代からの念願であった排水問題は、いつこうに改善されませんでした。しかも、排水を困難にする新しい問題もつぎつぎと生じてきました。旧来の排水系統が不合理なところへ、水路が素掘りであるため荒廃し、断面が狭小で勾配が不均一になっていました。そのうえ宅地造成などもあって保水が悪くなっていきますから、豪雨でも降ればたちまち出水しました。多くの水路が用排水兼用になっており、水路内の用水施設が排水の流下を妨げるようになっていました。しかも番田井路が安威川水位の影響を受けて、豪雨時には流下が困難になります。そのような状態のうえに、東海道新幹線基地の設置計画なども加わって、これらの水路を改良する必要性に迫られていました。そこで、大阪府の大規模な灌漑用水排水改良事業の一つ

として、昭和三十八年度から五カ年計画で、三島平野用排水改良事業が行われるようになりました。今まで排水は、大別して、神崎川に排水する番田井路の系統がありましたが、鳥飼井路・三箇牧井路を改修して幹線水路とし、排水はすべてこの幹線水路を通じて神崎川に流下させることにしました。

また、主要排水路内にある戸堰などの用水施設は可能な限り撤去し、あるいは改良することにしました。主要な水路はコンクリートで底張りして、流水をよくし、支線あるいは末端の排水路も神安土地改良区によって維持管理されることになりました。

その結果、排水もよくなり、宅地や工場用地に転用される農地が急増しました。

「摂津市史より」 担当 (茗荷)



○昭和28年9月25日、13号台風が上陸、淀川が増水しました。写真は水没した鳥飼地区の風景です。

考古雑話

第34回

摂津市と水田の考古学

摂津市域の条里制

「吹田操車場跡地周辺の調査」(三)

前号では、吹田操車場跡地周辺の発掘調査の概要について説明しました。その中で大阪府埋蔵文化財調査研究センターが平成十二年八月に実施した発掘調査では、現地説明会が開催され、その資料のなかで条里制について記述した部分がありますので抜粋します。

条里地割の初源を解明

今回の調査では、近代から古代にかけて4層の水田耕土を検出しました。現在残る道や地割等は、かつて一帯が耕地(水田)だった時のなごりです。耕土の地割は「条里地割」と呼ばれ、この付近で33度西に振った方向を軸とした基準線が早くから予想されていました。今回、はじめてこの地割に沿ったあぜや水路をもつ水田が吹田市内で発見されました。また、この条里地割は耕土中に混じっていた遺物から10世紀頃にまでさかのぼることが明らかになりました。

※ また、本市が発掘調査を実施しました、摂津市千里丘3丁目に所在します蜂前寺跡では、この条里に規制された鎌倉時代(13世紀)の東西溝や建物跡が見つかりました。調査の成果については今後おって報告していきます。

『吹田操車場遺跡の調査・吹田操車場遺跡現地説明会資料』
2000年8月26日
大阪府文化財調査研究センター

現地説明会を開催しました。

平成十二年十二月九日(土)千里丘三丁目千里丘公民館前の蜂前寺跡で現地説明会を開催しました。当日は穏やかな絶好の日よりで、地域の方々など約七〇名の参加がありました。

発掘調査は十一月六日から、市有地約二〇〇平方メートルを人力にて掘削しました。現状の地盤から約一三〇cm掘り下げたところから、鎌倉時代の溝、井戸、掘立柱建物跡、総柱建物跡、土壙墓などが見つかりました。



あ

からはじまる考古学

【む】無土器時代(むどきじだい)

○日本考古学上の時代区分の一つとして用いられました。群馬県岩宿遺跡の発見にともない、縄文時代に先行する土器のともなわな時代に対して言われたものです。○縄文時代以前の名称については、長く論争がありました。「先土器時代」「旧石器時代」「無土器時代」と研究者の間で名称が異なっていました。この状況は現在でも統一されないまままっています。○一方こうした現状を見なおし、一つにまとめて新たに「岩宿時代」と統一して呼ぼうという試みも提示されています。

担当 (伊部)